

JHL NEWS

No.21

2013年3月11日
●発行●
日本ハンドボールリーグ機構
会長 多田 博
東京都渋谷区神南1-1-1
電話 03-3481-2494



2連覇を達成した④大同特殊鋼・岸川⑤オムロン・藤井

大同特殊鋼、オムロンが2連覇達成!

～第37回日本ハンドボールリーグ・プレーオフ～

第37回日本ハンドボール・プレーオフは3月9、10日に駒沢体育館（東京）で行われ、男子はレギュラーシーズン4位の大同特殊鋼が準決勝で大崎電気（同1位）、決勝でもトヨタ車体（同2位）を連破して逆転Vを達成、女子はオムロンがレギュラーシーズン1位の意地を見せて広島メイプルレッズ（同3位）との決勝戦を1点差で制し、大同とともに2年連続16回目の栄冠に輝いた。

男子決勝はリーグ2位の車体とリーグ4位の大同が対戦した。好スタートを切ったのは大同。大同は準決勝でリーグ1位の大崎を倒した勢いをそのままに足を使って積極的に攻め、前半7分で4-1とリードを奪った。しかし、車体もディフェンスからの速攻、サイドシュートで9分4-4と同点に並び、その後は両チームともコートをつるに使い、目まぐるしいポジションチェンジで得点を狙う互角の展開が続き、両者譲らず同点のまま前半を終えた。

後半に入り、車体・石戸のロングシュートが連続して決まるが、大同も高景洙のロングシュートで取り返す。そして、試合の流れが大きく動いたのが8分過ぎ。車体が14-13と1点リードのところ、大同は岸川らで確実に得点に結びつけ10分16-14と逆転に成功した。これで波に乗った大同に対し、車体は大同ディフェンスのプレッシャーとGK久保侑のファインセーブに阻まれてペースダウン。大同は20分過ぎから野村、千々波らで次々と得点を奪い、25分24-17と一気に差を広げた。終盤に入っても大同ペースは変わらず、最後まで果敢にゴールを狙った大同が27-19の8点差で栄冠をものに

した。リーグ4位チームの決勝進出、そして優勝は初めてのことで。チーム一丸となった大同セブンが高らかに勝利の雄叫びをあげた。

女子決勝はリーグ1位のオムロンとリーグ3位の広島が熱い火花を散らした。最初に流れをつかんだのは広島。準決勝でリーグ2位の北國銀行を倒した勢いと運動量をこの試合でも発揮し、素早い速攻とパスワークでチャンスを切り開き、前半15分7-4と優位に立った。オムロンは藤井、東濱の個人技などで得点を狙うが、広島はGK堂面の好セーブを中心に手堅いディフェンスで失点を食い止め、攻めでは増田らの活躍もあって終始先手を取り続け、12-8と4点リードして前半を終えた。

後半に入るとオムロンのディフェンスが機能しはじめ、広島が攻めあぐねる間に石立、澤田の速攻や東濱の高打点シュートなどで8分までに一気に6点を連取、オムロンが15-13と形成を逆転した。その後は石立のカットイン、藤井のロングシュートなどで加点するオムロンに対し、広島も早川のサイドシュートや宋海林のミドルシュートなどで応戦し、1点をめぐる激しい攻防が終盤まで続いた。

オムロンはGK藤間の好セーブもあって21-20と先行したまま残り5分を切り、27分には石立が貴重な追加点をものにして2点リード。広島も早川のポストシュートで1点差とし、さらに残り30秒でボールを奪い速攻につなげるが、オムロン必死のディフェンスに止められ、最後の望みをかけたノータイムフリースローがゴールを割れずにタイムアップ。激闘を制したオムロンが女王の座を守った。



㊤トヨタ車体・渡部 ㊦広島メイプルレッズ・増田

車体、大同が勝負強さを発揮 男子準決勝

男子準決勝第1試合はリーグ1位の大崎電気と4位の大同特殊鋼が対戦。大同が高景洙の強烈なロングシュートで先制すると、大崎はすかさず小澤がサイドシュートを決め、さらに信太、豊田で連続得点を奪い、快調な滑り出しを見せた。前半12分まで7-5と大崎が先行。大同も負けてはいない。武田らで反撃に転じ、18分過ぎからは大崎のミスを実際に得点をつなげて21分13-9とペースアップ。大崎も選手交代で巻き返しを図るが、大同・高の個人技を止められず、11-16と5点ビハインドで前半を折り返した。

後半も大同が主導権をキープ。大崎は大同・高にマンツーマンを仕掛けるが、なかなか得点につながらない。それでも残り10分を切って高めのディフェンスから速攻につなげ、25分には21-23と2点差まで詰め寄る。しかし、大同は素早い攻撃で27分26-21とリードを広げ、終盤激しく追いつける大崎を27-24と突き放して決勝戦に躍り出た。

準決勝第2試合は昨年12月の全日本総合決勝と同じ組み合わせ。湧永製薬は立ち上がりのディフェンスが良く、サイドの新が2連続得点、その後も中浦らで積極的の攻め、前半10分5-2と好スタートを切った。一方のトヨタ車体も石戸の豪快なロングシュート、渡部のサイドシュートなどで18分6-7と1点差に肉薄。その後は一進一退の攻防が続く、29分に車体・横地が同点ゴールを決め、9-9のイーブンで前半を終えた。

後半に入り、車体は湧永・谷村が退場したチャンスに2点をリード、9分まで14-11と先行を続けた。ここから湧永もディフェンスでがんばり、約10分間無得点に抑えて18分14-14と並んだ。しかし、残り5分から車体は石戸のロングシュートで18-16の2点差に。その後も果敢にゴールを狙い続けた車体が高智、渡部らの活躍でラストスパートをかけ、21-16と5点差をつけて勝利を握った。

<p>◆ 3月10日(日) 女子・決勝 東京・駒沢体育館</p> <p>オムロン 22 (8-12) 21 広島メイプルレッズ リーグ1位 14-9 リーク3位</p> <p><1/4> K 藤間 堂面 K <0/1> 2/4 澤田 増田 3/9 0/0 卷 高橋 0/0 0/0 稲葉 河田 1/1 1/1 4/13 藤井 大前 2/3 6/10 石立 宋海林 5/12 4/5 0/0 吉田 薫 塩見 0/2 0/0 相澤 早川 4/5 0/0 永田 安齋 0/0 <0/1> K 山中 塩田 0/0 0/0 前田 高山 0/0 0/0 吉田 起田 0/0 4/7 東濱 新加 2/4 1/3 松本 藤村 0/0 0/0 小本 加木 0/0 4/5 金且妍</p> <p>1/1 21/42 6(FPP)4 17/36 4/5</p> <p>シュート阻止率 0.261 6/23 藤間 堂面 12/33 0.364 0.000 0/0 山中 田口 0/0 0.000</p> <p>0.261 6/23 (GK) 12/33 0.364 審判(池淵・檜崎) 観客 2704人</p>	<p>◆ 3月10日(日) 男子・決勝 東京・駒沢体育館</p> <p>大同特殊鋼 27 (11-11) 19 トヨタ車体 リーグ4位 16-8 リーク2位</p> <p><1/1> K 田中 木下 K 3/3 棚原 石戸 3/8 3/9 野村 高智 3/7 1/1 浦田 横地 1/4 1/1 渡久川 藤本 1/2 1/1 地引 藤本 1/1 1/3 武田 高木 0/0 4/9 岸川 木切倉 0/1 0/1 平子 富田 0/2 K 久保侑 光増 2/4 2/3 加藤 鶴谷 0/1 2/4 千々波 坪根 K 2/3 山城 香川 1/5 <0/1> K 東 崎前 2/4 0/1 下村 渡部 4/5 1/2 7/12 高景洙 甲斐 K</p> <p>0/0 27/51 2(FPP)3 18/44 1/2</p> <p>0.571 4/7 田中 木下 8/18 0.444 0.581 18/31 久保侑 坪根 4/9 0.444 0.500 2/4 東 甲斐 9/21 0.429</p> <p>0.571 24/42 (GK) 21/48 0.438 審判(Jasem・Ahmad) 観客 3043人</p>	
<p>◆ 3月9日(土) 女子・準決勝 東京・駒沢体育館</p> <p>広島メイプルレッズ 23 (10-9) 15 北國銀行 リーグ3位 13-6 リーク2位</p> <p><0/1> K 堂面 寺田 K <1/2> 5/11 増田 若泉 0/0 0/0 高橋 畝場 0/0 0/1 河田 上町 2/5 1/1 7/9 大前 翁長 0/0 1/2 3/6 宋海林 石野 1/3 0/0 塩見 田邊 1/2 2/4 早安 小野澤 2/4 0/0 横嶋か 後藤 1/9 0/0 塩田 後藤 5/7 1/2 高山口 代 K K 田口 横嶋彩 0/0 4/5 新城 河田 0/1 0/0 加藤 藤村 0/1 0/0 木村 若松 2/3 小松 0/0</p> <p>1/2 22/38 7(FPP)2 14/35 1/1</p> <p>0.588 20/34 堂面 寺田 0/1 0.000 0.000 0/0 田口 田代 15/36 0.417</p> <p>0.588 20/34 (GK) 15/37 0.405 審判(河合・臼井) 観客 1870人</p>	<p>◆ 3月9日(土) 男子・準決勝 東京・駒沢体育館</p> <p>大同特殊鋼 27 (16-11) 24 大崎電気 リーグ4位 11-13 リーク1位</p> <p><1/1> K 田中 浦和 K <0/2> 1/3 棚原 小澤 3/6 3/3 3/9 野村 小豊田 4/6 0/0 浦田 宮崎 2/11 0/0 渡久川 東長濱 6/11 0/1 0/3 地引 永島 0/0 3/4 武田 小室 1/1 2/5 岸川 馬場 0/0 0/0 平子 森 1/2 K 久保侑 岩永 3/3 0/0 加藤 夏山 0/0 1/2 千々波 内田 0/0 4/5 山城 猪妻 1/1 K 東 吉田 K <0/1> 0/0 下村 時村 0/1 10/14 高景洙 信太 3/7</p> <p>3/3 24/45 8(FPP)8 24/49 0/1</p> <p>0.000 0/5 田中 浦和 13/33 0.394 0.387 12/31 久保侑 吉田 1/5 0.200 0.000 0/0 東</p> <p>0.333 12/36 (GK) 14/38 0.368 審判(Jasem・Ahmad) 観客 3276人</p>	<p>◆ 3月9日(土) 男子・準決勝 東京・駒沢体育館</p> <p>トヨタ車体 21 (9-9) 16 湧永製薬 リーグ2位 12-7 リーク3位</p> <p>K 木下 志水 K <0/2> 0/0 笠原 谷村 2/7 5/8 石戸 木村 2/4 4/8 高智 坂本 2/3 1/1 横地 成田 0/1 0/1 1/2 藤本 東江 0/0 0/0 藤田 佐藤 0/4 0/0 高木 名嘉藤 0/0 1/1 木切倉 伊藤 K 2/2 富田 新 5/8 0/2 光増 仁平 1/3 K 坪根 今井 0/1 0/0 香川 松村 K <1/1> 2/3 崎前 古中 0/4 2/2 3/5 渡部 浦名 4/8 K 甲斐 新 0/0</p> <p>2/3 19/32 2(FPP)7 16/43 0/0</p> <p>0.526 10/19 木下 志水 7/18 0.389 0.000 0/0 坪根 伊藤 0/0 0.000 0.650 13/20 甲斐 斐 5/13 0.385</p> <p>0.590 23/39 (GK) 12/31 0.387 審判(本田・田淵) 観客 2480人</p>



北國銀行・後藤

広島が攻守に北國を圧倒 女子準決勝

女子準決勝は、GKのファインセーブにも助けられた広島が先に試合の主導権を握り、前半7分5-1と先行。一方の北國はディフェンスラインを上げ、カットからの速攻で得点を重ね、12分に同点に追いついた。その後は両チームの堅守の応酬もあって得点ペースが鈍り、接戦の展開が続いた。

10-9と広島1点リードで迎えた後半、広島はディフェンスからの速攻で加点して10分16-12とリード。このあと広島に退場者が出るが、北國はそのチャンスを活かせず、逆に広島の得点を許す。広島は大前をトップに据えた5:1ディフェンスが機能、GK堂面の再三にわたる好セーブも光り、北國の攻撃リズムを崩した。攻めてもコートを広く使い、緩急をつけたパスワークで着実に加点した広島が、23-15の快勝で6年ぶりの決勝進出を果たした。



MVP



④大崎電気・小室 ⑥湧永製薬・坂本



①大同特殊鋼・久保 ②オムロン・石立

男子・プレーオフ成績

大崎電気 (通算1位)	24		
大同特殊鋼 (通算4位)	27	27	優勝 大同特殊鋼
湧永製薬 (通算3位)	16	19	(2年連続16回目)
トヨタ車体 (通算2位)	21		

女子・プレーオフ成績

オムロン (通算1位)	22	優勝 オムロン
北國銀行 (通算2位)	15	21 (2年連続16回目)
広島メイプルレッズ (通算3位)	23	

〈男子順位〉	
1位	大同特殊鋼
2位	トヨタ車体
3位	大崎電気
4位	湧永製薬
〈女子順位〉	
1位	オムロン
2位	広島メイプルレッズ
3位	北國銀行

第37回 日本リーグ表彰一覧

男子		女子	
・最高殊勲選手賞	久保 侑生 (大同特殊鋼)	初	石立真悠子 (オムロン) 初
・最優秀監督賞	末松 誠 (大同特殊鋼)	初	黄 慶泳 (オムロン) 6回目
・殊勲選手賞	渡部 仁 (トヨタ車体)	初	宋 海林 (広島メイプルレッズ) 初

JHLジュニアリーグ決勝

〈女子〉	
北陸電力ジュニアブルーケッツ 14 (8-7)	13 琉球コランジュニア (6-6)
〈男子〉	
北國ハニービージュニア 19 (7-7)	17 琉球コランジュニア (12-10)

